



飯島 佑香 (いじま ゆうか) 由木中央小 5年生

作品名：夢をかなえるゾウを読んで

図 書：夢をかなえるゾウ

私の家の本棚には、たくさんの本が並んでいます。その中のひとつをパラパラと見ていたら、母に、「その本おもしろいから読んでみたら」と薦められたのが私とガネーシャとの出会いでした。

ガネーシャとは、象のように長い鼻、鼻の付け根からのぞく白い牙をもち、そしてぼってりとした大きな腹、四本もある腕をもつ関西弁を話す自称インドの『神様』です。でもようするに変な姿をした、かなり変わった生き物、いや化け物です。

主人公のぼくはある朝、しょうげきの出会いをしてしまいます。朝起きると目の前には化け物がいたのです。ぼくは夢だと思おうとします。目の前のガネーシャと名のる化け物はぼくにむかって

「覚悟でけてる」

と関西弁で話しかけるのです。話しているうちにぼくは、目の前の化け物がインド旅行で買った象の置き物の姿と同じだということに気がきました。ガネーシャは、ぼくが変わりたいと思ったので現れて、そこからぼくとガネーシャの不思議なガネーシャ式の『変わる』ための課題をこなす日々が始まりました。

靴をみがく、コンビニでお釣りを募金する、食事を腹八分におさえる、会った人を笑わせる、トイレ掃除をする、明日の準備をするなどなど、まだまだたくさん課題がありました。やらずに後悔していることを今から始める、毎日感謝する、どれもすぐに『変わる』ためには大切とは思えないほど小さくささいな課題ばかりです。

私がすごいなと思った課題はお参りに行くという課題です。成功したいと思っている人は、少しでも可能性があることなら何でも実行しているし、とりあえずやってみる事が大事だと、ガネーシャが言っています。何でもやってみるということは全ての課題に共通していると思いました。どんなことでも、実行してやることでほんの少し『変わる』ことができるかも知れないと思います。人は一度に変わるわけではなく、少しずつの積み重ねで変わっていきけるのだと思います。

最後にガネーシャは人間が『変わる』には不幸が必要だと言いました。つらいことがあると、人は努力して変わらないといけないと思い始めるからだ

と思います。

ガネーシャがぼくに出した課題は私にも出来ることばかりでした。その全部を今すぐやるにはむずかしいかもしれないけど、私もぼくのようにガネーシャの言葉を思い出しながら、今の自分にできること、良いと思えることをやっていきたいと思いました。自分ではがんばろうとしてもできないことがたくさんあるので、自分で課題を決めて少しずつやってみようと思います。ほんの少しのことでも努力して全力で取り組むことが大切だと思うので、これからいろいろな事にチャレンジしていつか目標にたどりつけるようにがんばりたいです。なぜなら、私もガネーシャと出会ってしまったからです。